

# けんしゅうしましよ



## 事後研のグループ討議から～授業研から得た学び

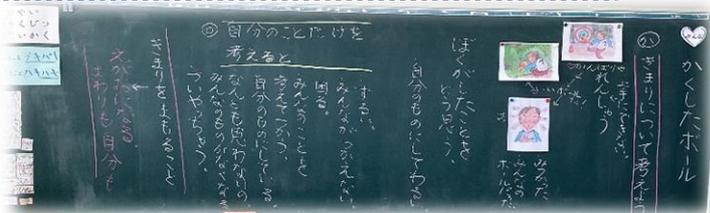
道徳 主題名 「みんなの物や場所を大切に使う」  
 中心内容項目 C-12 規則の尊重  
 資料名 みんなのボール  
 授業者 1年2組担任 斉藤豪



- ・学級経営に関わり、子どもたちが積極的に手を挙げ、安心感を持って自分の考えを発表している姿がよかった。先生が常に子供たちの考えを受け入れ、安心感のある雰囲気を作り出されていた。
- ・先生が相づちがまさに伴奏者としての姿として、具体的に現れていた。子どもたちの発言を一つ一つ取り上げるのではなく、「そうなんだ」「ええー」と、子どもたちの発言を促すというのが、具体的な伴奏者の姿として現れていた。
- ・写真の活用により、子供たちが自分事としてこの学習に参加するきっかけになっていた。導入ではアンケートと写真を使い、自分たちではできていると思っていたけど実際はそうではないというずれが、問題意識をもたせることにつながっていた。また、後半では価値に関わる自分達の姿を見せ、子どもたちの日常に価値付けしてあげるのがとてもよかった。帯小でも課題となっている「自己肯定感」を高めるための一つの方法として素晴らしい実践だった。
- ・共通解の「みんなで使うものだから大切に使う」に対して、「なぜ大切なのか」という部分をより深められるとよかった。そのためにも、子どもたちのつばやきを拾ったり、経験を思い出したり、アンケートを活用したりする過程を経て、共通解をより自分事として捉えられるようにしていくことが大事。
- ・『知らないよ』って言った子どもたちはどんなことを考えたのかな』の発問のときに、先生が予想していた子どもの反応と実際の反応が違った。それにより発問のつながりが少しずれてしまったように感じた。(発問の意図を明確にし、子どもの発言を予想する中で、問い返しや切り返しの発問を自分の中でもっておくことにより、多面的多角的に考えるきっかけになったり、自我関与しながら語ったりする展開につながるのかなと思います。)



道徳 主題名 「きまりを守る」  
 中心内容項目 C-12 規則の尊重  
 資料名 かくしたボール  
 授業者 2年1組担任 米野 由利子



- ・役割演技や課題へのスムーズな進め方はやはり日常の学級経営がしっかりしているからこそ。教材文の解説も丁寧で理解しやすかった。
- ・「少人数」を生かし、授業では全員が自分の考えをしっかりと話せたことがよかった(日常の積み重ね)。
- ・同じ内容項目の学習をする際のポスターの活用として、前回との違いを授業の最後に子どもたちに確認することで、前回から一歩先に進んだことを実感できたと思う。

- ・アリンピックと廊下の歩き方のように、子どもたちにとって身近な話題から入ることで、より自分事として学習をスタートすることができていた。
- ・「でも、つついちゃっちゃうな」の子どもをつぶやきを拾ったのがよかった。そこから揺さぶったり事前アンケートを活用したりすることで、より話し合いの深まりにつながったと思う。
- ・納得解をどのように書かせるか。今日は「思ったことを書いてね」だったが、自分との関わりで考えるために視点を与えたり想起させたりと、方法は他にもありそう。次年度の課題として残る部分。



今回、お二人は偶然「規則の尊重」ということで、内容項目が重なりました。重なることでのメリットにも気付けた公開でもあったのかなと思います。例えば、発達段階における価値の違いを意識したり、指導方法を共有したり…と、次年度の授業づくりのヒントになるように感じました。冬休みからこつこつ準備を進められ、今回公開してくださった豪先生、米野先生、誠にありがとうございました。

単元名 自立活動「チャレンジしよう！～人生ゲーム帯小バージョン～」

授業者 1・2年生情緒学級 T1 阿曾 直哉 T2 大島 丈

- ・人生ゲームは、自分の苦手なことにチャレンジしたり、友達の苦手なことを知り、そのがんばる姿を応援し合いながら関わりをもったりするなど、多くの成長要素が詰まったゲームだった。今日の学習が長い目で見たときに、子どもたちの変化のきっかけになるとよい。
- ・学習の形態がよかった。お互いにチャレンジしている様子を見ることで、認めたり認めてもらったりすることが子どもたちの達成感や満足感につながっていた。
- ・教材が子どもたちの課題に沿って作られているのがすばらしい（教師が児童の実態を的確に把握しているからこそ）。
- ・今回のような個別のチャレンジを含む授業は新しい試みであり、これからも参考になる良い授業だと感じた。
- ・場に応じた応援方法など、日常生活のつながりの意識が感じられる学習だった。
- ・特別支援部会の仮説2（自己肯定感）に関わって、「できてはいるけれども自己評価の低い子」がいる中で、子供たちの成長を促す手段を次年度以降も模索する必要がある。（先生方の「〇〇できたね！」のような前向きな言葉かけが子どもたちの達成感や満足感につながっていく）
- ・子どもたちの「言葉掛けの一覧」があれば良かった。
- ・T1、T2の連携がよかった。学習のねらいや進め方についてしっかりと共通理解を図りこの学習に臨んでいたことが伝わってきた。
- ・自己理解に関わって、自分の苦手を理解させるのも、どのように、どの程度理解させるかは難しい面がある。この部分も次年度以降の課題として残る。



学習への意欲を引き立てる工夫が、子どもたちが「もっとやりたい！」につながった素敵な授業でした。支援だけでなく、通常級においても今後の授業づくりのヒントをたくさん得ることができ、有意義な時間となりました。阿曾先生・大島先生、誠にありがとうございました。